

**施策体系シート(行政経営Bシート)**

作成者	組織	自然環境課	職	次長兼課長	氏名	手井 博史
評価者	組織	自然環境課	職	次長兼課長	氏名	手井 博史

施策	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	積極的な種の保存と適切な野生生物の保護管理	1 絶滅危惧 I 類の種数	種	183 (H22)(※)	273 (H29)	273 (H30)	B
		2 指定希少野生動植物種の数	件	20 (H22)(※)	20 (H29)	20 (H30)	

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題						課題に対する主な取り組み				評価					
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性			
					(年度)	(年度)									
施策1	課題1 希少種の保存	トキの繁殖数	羽	63 (H30)	57 (H29)	63 (H30)	1 トキ分散飼育費	県民	46,219	45,845	B	継続			
							2 トキと人との共生推進事業費	県民	1,000	852	B	統合			
							3 次代へつなぐトキ舞う里山アクション推進事業費	県民	2,000	1,879	B	見直し			
	課題2 野生鳥獣の保護と管理	クマによる人身被害件数	件	0 (H22)(※)	2 (H29)	2 (H30)	1 大型獣対策事業費	県民	8,800	7,441	B	継続			
							2 イノシシによる農業被害額	千円	65,000 (R3)	107,610 (H29)	115,699 (H30)				
							3 シカの平均生息密度	頭/km <sup>2</sup>	5.0以内 (R3)	2.9 (H29)	6.8 (H30)	2 ニホンジカ捕獲促進事業費	県民	14,400	8,508

(※)H23以降も目標達成に向け努力

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	トキ分散飼育費	事業開始年度	H21	事業終了予定年度		作組織	自然環境課
		根拠法令 ・計画等	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律・トキ保護増殖事業計画			成職・氏名	主任主事 大門 亮介

**事業の背景・目的**  
 環境省のトキ保護増殖事業計画に基づき、平成22年1月に佐渡トキ保護センターからいしかわ動物園にトキが移送され、本県でのトキの分散飼育が開始したことを受け、トキの飼育繁殖を円滑に実施することを目的とする。

**事業の概要** 46,219 千円

- 1 トキの飼育繁殖の実施  
 国の全体的な飼育繁殖計画に基づいてトキの飼育繁殖を実施し、一定の飼育個体群を形成することで、鳥インフルエンザ等の感染症による再絶滅の危険を回避する。
- 2 トキの飼育・繁殖技術の研鑽  
 トキ飼育先進地である佐渡トキ保護センター等の視察を行い、トキの飼育繁殖技術の研鑽を図る。
- 3 トキの飼育・繁殖に関する情報の収集  
 環境省が開催する専門家会合や検討会等への出席や、専門家の招へい等により、トキの飼育・繁殖に関する情報を収集する。
- 4 トキの移送  
 いしかわ動物園において増殖したトキを佐渡トキ保護センターへ返還する。
- 5 トキの普及啓発  
 平成28年11月にオープンしたトキ里山館での公開展示を通じ、トキの生態、生息環境やトキを育む環境づくりの理解浸透につなげる。

**<参考> 分散飼育の経緯**

- 平成19年度 鳥インフルエンザ等の感染症による再絶滅の危険を回避するため、多摩動物公園に緊急移送を決定。分散飼育先の選定の検討
- 平成20年度 分散飼育候補地の視察(H20早春以降)。分散飼育地の決定(H20年12月)
- 平成21年度 分散飼育実施地の視察(H21秋)。繁殖ペア(2ペア)の受入れ(H22年1月)
- 平成25年度 追加繁殖ペア(1ペア)の受入れ(H26年1月)
- 平成29年度 追加繁殖ペア(1ペア)の受入れ(H29年10月)

施策・課題の状況							
施策	積極的な種の保存と適切な野生生物の保護管理					評価	B
課題	希少種の保存						
	指標	トキの繁殖数				単位	羽
	目標値	現状値					
	平成30年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
	63	41	45	50	57	63	
事業費							
	(単位:千円)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
事業費	予算	26,126	26,773	28,927	46,226	46,219	
	決算	25,968	26,680	28,789	46,033	45,845	
一般財源	予算	26,126	26,773	28,927	46,226	46,219	
	決算	25,968	26,680	28,789	46,033	45,845	
事業費累計		124,191	150,871	179,660	225,693	271,538	
評価							
	項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		B	いしかわ動物園において、トキの飼育繁殖に取り組んできたところであり、平成30年度には6羽のヒナが無事に巣立ちを迎え、トキの安定的な個体群の形成に貢献することができた。 また、トキ里山館において、トキの姿を間近に観察していただくことで、その生態や生息環境について理解を深めるとともにトキを育む環境づくりの大切さを考える契機としていただくことができた。				
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	トキの飼育繁殖技術の更なる向上を図り、希少種の保護増殖に貢献するとともに、里山や生物多様性のシンボルであるトキを通じて、県民にかつてトキが生息していた里山環境に理解を深めていただき、里山保全活動の裾野の拡大につなげるため、引き続き、トキの飼育繁殖及び、公開展示による普及啓発に取り組む。				

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	トキと人との共生推進事業	事業開始年度	H29	事業終了予定年度		作 組 織	自然環境課
		根拠法令 ・計画等	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律・トキ保護増殖事業計画	成 職・氏名	主任主事 大門 亮介	者 電話番号	076 - 225 - 1476 内線 4265

**事業の背景・目的**  
 本県は、本州最後のトキ生息地であり、トキに大変ゆかりが深い土地であることから、トキが再び舞うような里山を取り戻し、永く後世に引き継いでいく必要がある。  
 トキの認知度向上やトキを育む環境づくりの**普及啓発**に取り組み、県民のトキに対する一層の理解を深めることを通じて、トキ保護、ひいては自然環境保全についての意識を醸成し、トキと人との共生するいしかわの推進を図る。

**事業の概要** 1,000 千円

- 1 トキの生態・生息環境を学ぶセミナーの開催  
 いしかわ動物園「トキ里山館」で生態・生息環境を学び、トキ保護につながる環境保全活動の動機付けを図る  
 対象者：県民全般
- 2 佐渡派遣研修の実施  
 トキを育む環境づくりの現場視察やトキ保護団体関係者との意見交換  
 対象者：トキの生態・生息環境を学ぶセミナーの参加者など、トキを育む環境づくりに特に意欲のある団体
- 3 小学校向け出前講座の開催  
 トキ保護を通じた環境教育(出前講座)の実施

施策・課題の状況						
施策	積極的な種の保存と適切な野生生物の保護管理				評価	B
課題	希少種の保存					
	指標	トキの繁殖数			単位	羽
	目標値	現状値				
	平成30年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	63	41	45	50	57	63

事業費						
	(単位:千円)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	予算				1,200	1,000
	決算				1,005	852
一般財源	予算				1,200	1,000
	決算				1,005	852
事業費累計			0	0	1,005	1,857

評価	
項目	評価
<b>事業の有効性</b>  (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<b>B</b> トキの生態・生息環境を学ぶセミナーでは、54名が参加し、トキ保護につながる環境保全活動への動機付けが図られた。 佐渡派遣研修では、6名が参加し、理解度の向上や知識の集積のほか、人脈の拡大や成功事例の体感によるモチベーションアップといった効果が得られた。 トキ出前講座では、小学校7校において、授業形式でのわかりやすい講座によりトキの保護活動に対する理解度が向上した。
<b>今後の方向性</b>  (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<b>統合</b> トキ保護を通じた県民の自然環境保全意識の醸成をより一層促進するためには、次代を担う子ども達を対象とした取り組みを強化する必要があることから、本事業を「次代へつなぐトキ舞ういしかわアクション推進事業」(小学生向けの環境教育事業)に統合し、出前講座をトキこども検定の事前学習に活用するなど、小学校における取り組みやすさの改善と、学習効果の向上を図る。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	次代へつなぐトキ舞ういしかわアクション推進事業費	事業開始年度	H30	事業終了予定年度	
		根拠法令	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律・トキ保護増殖事業計画		
		計画等			

作組	織	自然環境課			
成職	氏名	主任主事 大門 亮介			
者	電話番号	076 - 225 - 1476 内線 4265			

**事業の背景・目的**  
 本県は、本州最後のトキ生息地であり、トキに大変ゆかりが深い土地であることから、トキが再び舞うような里山を取り戻し、永く後世に引き継いでいく必要がある。  
 トキをシンボルとした自然環境保全への意識醸成に向けて、将来の担い手となる世代(小学生)に対し、トキをテーマとした環境教育を推進し、トキを育む環境づくりにつなげる。

**事業の概要** 2,000 千円  
 子どもたちがトキについて楽しみながら学び、自主的に身近な環境保全活動に取り組むきっかけづくりを行う。

- (1)「トキ舞ういしかわアクションシート」の作成・配布  
 子どもたちが自主的に学び、身近な環境保全活動に一步踏み出すきっかけとなる学習シート(アクションシート)を作成し、小学校に配布
- <内 容>  
 ○トキの生態を題材とした環境保全の基礎学習  
 ○子どもにもできる身近な環境保全活動の紹介
- <配布先>  
 県内の全小学校4～6年生(約3万人)
- <特典>  
 ○いしかわ動物園子ども無料招待券(参加者全員)  
 ○いしかわ動物園年間パスポート(抽選)
- (2)「トキこども検定」の実施  
 子どもたちが楽しみながらトキの知識を学ぶことができるよう、「トキこども検定」を実施
- <内 容>  
 ○トキについて小学校5～6年生の学習内容に合わせ出題  
 ○トキ検定の事前学習用問題の提供(ホームページ)  
 ○合格者には合格証等を交付
- <対 象>  
 モデル地域(七尾市、能美市)全小学校及び愛鳥モデル校5, 6年生(約2, 300人)

施策・課題の状況						
施策	積極的な種の保存と適切な野生生物の保護管理	評価	B			
課題	希少種の保存					
	指標	トキの繁殖数	単位	羽		
	目標値	現状値				
	平成30年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	63	41	45	50	57	63

事業費					
(単位:千円)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	予算				2,000
	決算				1,879
一般財源	予算				2,000
	決算				1,879
事業費累計		0	0	0	1,879

評価	
項目	評価
事業の有効性  (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	左記の評価の理由  B 県内全小学校4～6年生に「トキ舞ういしかわアクションシート」を配布した。また、モデル地域の小学校5～6年生を対象に「トキこども検定」を実施した。参加児童からは「トキについて詳しく知ることができた」、「トキが住む環境を守りたい」といった声があり、トキを通じた環境保全意識の向上につなげることができた。 また、楽しんで学べる内容となっていることから、児童が自発的に学習を始めるなど、環境教育を促すきっかけづくりとすることができた。
今後の方向性  (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	見直し 来年度は、「トキこども検定」の受検対象校を県内全小学校に拡大するとともに、「トキと人との共生推進事業」を統合し、出前講座をトキこども検定の事前学習に活用するなど、小学校における取り組みやすさの改善と、学習効果の向上を図り、トキをシンボルとした環境教育の定着に取り組む。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b>	大型獣対策事業費	事業開始年度	H23	事業終了予定年度		<b>作 組 織</b>	自然環境課	
		<b>根拠法令</b>	鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律、特定鳥獣保護管理計画(H13年度策定、H18延長)				<b>成 職・氏名</b>	専門員 弘津茂樹/主事 鶴飼 拓人
		<b>計画等</b>				<b>者 電話番号</b>	076 - 225 - 1477 内線 4268	

**事業の背景・目的**

(背景1 クマの個体数増加及び里山周辺での定住)  
 近年、市街地周辺等でもクマが目撃されており、里山周辺でのクマの定着が危惧されることから、クマの目撃が多い地域住民向けのセミナーを開催するほか、里山地域におけるクマの生息状況を把握し、より適切な管理のための基礎データ収集を図り、人身被害防止につなげる。  
 また、近年捕獲が低調となっていることから、市町職員を対象とした捕獲技術習得研修会を開催し、捕獲促進を図る。

(背景2 ニホンジカの生息域の拡大)  
 ニホンジカについては、生息数も少なく、分布も南加賀地域に偏っているという侵入初期の低密度の段階と考えており、個体数増加を抑制していくには、効率的に捕獲をする必要があるため、高密度な地点(越冬地や繁殖地)を把握する調査等を継続し、蓄積した調査データを県が実施する捕獲促進事業に活用するとともに、市町に引き続き提供することで、捕獲の促進につなげる。

(背景3 イノシシの県内全域への分布拡大)  
 繁殖力の高いイノシシについては、生息域が県内全域に拡大しているが、これまで生息数の有効な算定手法が確立されておらず、個体数が把握できていなかった。  
 今年度も引き続き、昨年度行った個体数推定等のデータ更新を行い精度を高め、市町にフィードバックすることで市町の捕獲の促進につなげる。

**平成30年度事業概要**

(1) クマ人身被害防止対策事業及び生息状況調査(2,200千円)  
 ・クマ目撃情報が多い地域等の住民向けに人身被害防止対策を普及啓発するセミナーを開催  
 ・市町向け捕獲技術研修会の開催  
 ・里山クマ調査(自動撮影カメラによるモニタリング調査)の継続

(2) ニホンジカ被害未然防止対策(5,920千円)  
 ・効率的な捕獲促進に繋がる各種調査の実施  
 ・市町・狩猟者等を対象に、被害未然防止対策セミナーを開催し、調査結果等を提供し、捕獲意欲の喚起を行う。

(3) イノシシ個体数推定等業務委託事業(680千円)  
 ・県全体及び地域ごとの個体数推定及び将来予測の実施  
 ・市町・狩猟者等を対象に、説明会を開催し、調査結果等を提供し、捕獲促進につなげる。

施策・課題の状況						
<b>施策</b>	積極的な種の保存と適切な野生生物の保護管理				<b>評価</b>	B
<b>課題</b>	野生鳥獣の保護管理					
<b>指標1</b>	クマによる人身被害件数				<b>単位</b>	件
<b>目標値</b>	現状値					
H22(※)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
0	5	2	2	2	2	
<b>指標2</b>	イノシシによる農業被害額				<b>単位</b>	千円
<b>目標値</b>	現状値					
令和3年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
65,000	91,449	70,325	81,061	107,610	115,699	
<b>指標3</b>	シカの平均生息密度				<b>単位</b>	頭/km <sup>2</sup>
<b>目標値</b>	現状値					
令和3年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
5.0以内	3.1	2.7	4.3	2.9	6.8	

※平成23年度以降もこれを目指し努力

事業費						
(単位:千円)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
<b>事業費</b>	予算	11,164	15,323	13,852	12,120	8,800
	決算	9,361	15,195	10,821	10,229	7,441
<b>一般</b>	予算	1,499	5,000	4,752	5,200	2,200
<b>財源</b>	決算	1,341	4,874	4,659	4,991	1,771
<b>事業費累計</b>		22,659	37,854	48,675	58,904	66,345

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<b>B</b> クマについては、セミナーを通じて県民の危機意識の啓発を図ったほか、里山地域におけるモニタリング調査により生息状況を把握し、人身被害防止対策につなげた。また、捕獲技術向上のための捕獲研修を実施し、捕獲の促進につなげた。 また、ニホンジカ及びイノシシについては生息状況調査を実施し、市町等に調査結果を提供することにより効率的な捕獲につながっており、イノシシの捕獲数は増加している。 (捕獲数) クマ H29:65頭 → H30:73頭 イノシシ H29:9,174頭 → H30:15,501頭 ニホンジカ H29:96頭 → H30:44頭
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<b>継続</b> クマについては、生息域が拡大、生息数が増加している一方、捕獲が低調であることから、引き続き捕獲技術研修の開催により捕獲の促進を図っていく。また、目撃が多い地域でセミナーを開催し、人身被害防止対策の普及啓発に力を入れる。 ニホンジカ及びイノシシについては、引き続き、生息状況調査を実施し、その結果を市町等に情報提供することで、捕獲の促進を図っていく。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b>	ニホンジカ捕獲促進事業費	事業開始年度	H30	事業終了予定年度		作 組 織	自然環境課
		根拠法令	特定鳥獣保護管理計画(H24年度策定)			成 職・氏名	専門員 弘津茂樹
		・計画等	特定鳥獣管理計画(H27年度策定)			者 電話番号	076 - 225 - 1477 内線 4267

**事業の背景・目的**  
**【背景】**  
 ニホンジカについては、全国的に生息数が増加傾向にある中、近年、県内においても生息数が増加、生息域も拡大傾向にあり、今後、イノシシと同様に、県全体へ分布が拡大し、農林業、生活環境及び森林生態系への被害の拡大が懸念される。

**【目的】**  
 県内におけるニホンジカの捕獲数は低調で、生息数の抑制に繋がっていないことから、県内の高密度地域(定着し繁殖している地域)において、県が積極的に捕獲を進め、生息数の抑制を図る。

- 平成30年度事業概要 (事業費: 14, 400千円)
- ① 捕獲計画の策定・効果検証 3,200千円(県負担分 0千円)
 

捕獲事業を計画的に実施するための実施計画を策定

    - ・実施計画策定検討会の開催
    - ・実施計画策定等業務委託(計画案の策定、捕獲情報の収集・分析、事業結果の評価・検証)
    - ・生息状況調査(ライトセンサス調査、アンケート調査など)
  
  - ② 銃猟による捕獲 5,200千円(県負担分 2,600千円)
 

高密度地域での銃猟による捕獲

場 所: 県内の高密度地域のうち2地域

時期等: 12月～翌年2月末
  
  - ③ 大型檻による捕獲の実証 6,000千円(県負担分 0千円)
 

高密度地域での遠隔監視・操作システムを使った大型捕獲檻による捕獲

場 所: 県内の高密度地域のうち1地域

時期等: 10月～12月末

施策・課題の状況						
施策	自然環境の保全、生物多様性の確保及び野生鳥獣の保護管理				評価	B
課題	野生鳥獣の保護管理					
指標	シカの平均生息密度				単位	頭/km <sup>2</sup>
目標値	現状値					
令和3年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
5.0以内	3.1	2.7	4.3	2.9	6.8	

事業費						
(単位: 千円)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
事業費	予算				14,400	
	決算				8,508	
一般	予算				2,600	
財源	決算				1,573	
事業費累計	0	0	0	0	8,508	

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<div style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">C</div> 捕獲計画に基づき、銃猟、大型檻による捕獲を実施した結果、暖冬の影響もあり、ニホンジカの捕獲は1頭にとどまったものの、効果的にシカを誘引するためのわなの設置方法などについて課題・知見が得られ、今後の捕獲促進に向け、一定の効果があった。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<div style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">継続</div> 銃猟、大型捕獲檻による捕獲については、捕獲区域の設定やわなの設置方法の改善などにより、効果的な捕獲手法の検討を進める。また、来年度より新たに、誘引誘導方式のくりわなによる捕獲の実証を行うことで、生息数の抑制を図り、農林業、生活環境及び森林生態系への被害の未然防止を図る。